速報

平成17年度
北海道医師会賞受賞者決定！
受賞者業績紹介

会員の医学的研究を奨励するため、医学的研究および医事衛生に関する優秀な業績の中から贈呈している北海道医師会賞の今年度受賞者が決定いたしました。

これは今春以来郡市医師会長ならびに医育機関医師会長に候補者の推薦方を依頼し、推薦のあったものについて、道内三大学の医学研究科長・学長、附属病院長、医師会長ならびに道保健福祉部長と当会副会長を委員とする北海道医師会賞受賞者選定委員会〔8月2日㈫〕において慎重審議の結果、7名の業績はいずれも優秀であり、今年度の北海道医師会賞とすべきものと答申され、さらに当会理事会の議を経て決定されたものです。

ここに受賞された方々の業績概要をご紹介いたしますとともに、受賞者各位の今後一層のご活躍を祈念いたします。

贈呈式は、9月24日㈯午後6時10分から札幌グランドホテルにおいて開催される第85回北海道医学大会総会の席上で行われることになっています。

なお同日は、北海道知事賞贈呈式も予定されております。

—学術部—

北海道医師会賞

医師会名	受賞者職氏名	研究（業績）題名
札幌市	医療法人 札幌山の上病院 院長　佐川昭（さがわ あきら）	リウマチ膠原病における臨床研究 —間質性肺炎マーカー、関節エコー、シェーグレン症候群、骨粗鬆症—
北海道大学	北大医学研究科 視覚器病学分野 教授　大野重昭（おおの しげあき）	難治性炎症性眼疾患の診断と治療に関する分子免疫学的研究
	北大医学研究科 脳神経外科学分野 教授　岩崎喜信（いわさき よしのぶ）	脊髄髄内の腫瘍の分析治療 脊髄空洞症の分析と治療 脊髄疾患の分析
札幌医科大学	札幌医大医学部 生理学第一講座 教授　當瀬規嗣（とうせ のりつぐ）	心筋興奮収縮連関におけるイオンチャネル機能の解明
	札幌医大医学部 地域医療総合医学講座 教授　山本和利（やまもと わり）	日本の農村部における2型糖尿病の有病率の推定
旭川医科大学	旭川医大医学部 救急医学講座 教授　郷一知（ごう かずとも）	心臓血管外科領域の救急医療
	旭川医大医学部 附属病院経営企画部 教授　廣川博之（ひろかわ ひろゆき）	網脈絡膜疾患における硝子体の役割

北海道医師会賞

リウマチ膠原病における臨床研究
～間質性肺炎マーカー、関節エコー、シェーグレン症候群、骨粗鬆症～

医療法人　札幌山の上病院　院長　佐川（さがわ）　昭（あきら）

佐川　昭先生は、昭和44年北海道大学医学部を卒業後、北海道大学医学部附属病院に勤務され、昭和49年から約３年間にわたりアメリカ合衆国カンサス大学医学部で臨床研修を積まれました。昭和52年に帰国後は苫小牧市立病院内科に勤務され、昭和54年から北大医学部第２内科助手、平成４年からは講師としてリウマチ膠原病の臨床研究の研鑽を積まれました。

平成５年に現在の札幌山の上病院に、内科的な視点にたった集中的なリウマチ膠原病治療を目的として、北海道で初めてのリウマチ膠原病領域の専門施設としてリウマチ膠原病センターを設立されました。平成７年からは現在の札幌山の上病院院長兼リウマチ膠原病センター長として、また、平成14年からは北海道大学薬学部臨床教授としてご活躍されております。

現在に至るまで、一貫してリウマチ膠原病の臨床と研究に携わってこられ、北海道における慢性内科疾患研究の第一人者として活躍される中、平成７年からは札幌市医師会学術・生涯教育委員会の委員として、また平成11年からは委員長として、10年間にわたり当会学術部発展のためにご尽力いただいております。

また、多数の著書、論文を執筆され、道内外における学会活動も顕著で、日本リウマチ学会、日本アレルギー学会、日本臨床免疫学会、日本臨床リウマチ学会等多数の評議員を務められるなど、その活動は高く評価されております。

以上、先生は研究家・臨床家としてさらなる発展が期待されております。

難治性炎症性眼疾患の診断と治療に関する分子免疫学的研究

北大医学研究科視覚器病学分野　教授　大野（おおの）　重昭（しげあき）

外界の情報の80％以上は視覚を通して得られることが知られている。したがって、光溢れる明るい健康な日常生活を過ごすためには視覚機能の保持が何よりも重要である。

大野重昭教授は1970年に北海道大学医学部を卒業後、眼科学を専攻し、失明率の高い難治性炎症性眼疾患の臨床、研究に一貫して従事してきた。この間、カリフォルニア大学サンフランシスコ校に２度留学し、眼炎症の診療および研究に携わった。1989年には横浜市立大学医学部教授となり、2000年からは北大大学院教授に就任している。

大野教授は日本だけではなく世界の失明予防のため、難治の外眼部疾患、網膜ぶどう膜疾患について長年にわたる詳細な分子免疫学的研究を行ってきた。これまでに中央アジアや中近東諸国を中心に世界74カ国を訪れ、国際的共同研究を継続し、失明予防に直結する数々の業績を世界に向けて報告してきた。アデノウイルス結膜炎の迅速診断法の開発、臨床応用はその一例である。また、ベーチェット病、Vogt－小柳－原田病の分子遺伝学的発症機構を世界で初めて解明した。一方、失明率が高く、有効な治療法のなかったベーチェット病に抗TNF-α単クローン抗体治療を試み、著明な治療効果を得た。現在、日本眼炎症学会理事長として活動中であるが、1998年からの５年間は国際眼炎症学会の理事長を務めるなど、世界的にも難治性炎症性眼疾患の臨床、研究に大きく貢献している。

脊髄髄内の腫瘍の分析治療
脊髄空洞症の分析と治療
脊髄疾患の分析

北大医学研究科脳神経外科学分野　教授　岩崎（いわさき）　喜信（よしのぶ）

岩崎喜信教授は、昭和46年に北海道大学医学部を卒業と同時に北海道大学医学部脳神経外科教室に入局し、脳神経外科学一般の研鑽を積んだ後に、昭和60年７月より米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校に留学し、脊髄脊椎疾患の臨床研究および治療の中心として、昭和62年12月より北海道大学医学部助教授となったのち、平成12年８月より北海道大学医学研究科脳科学専攻神経病態学講座脳神経外科学分野の教授を担当している。

岩崎教授は脊髄脊椎疾患の臨床研究および治療の中心として、脊髄疾患に対する新しい治療方法の開発を手がけてこられた。髄内腫瘍に対する２期的手術方法の開発、脊髄空洞症に対する空洞―クモ膜下腔短絡術（サッポロシャントチューブ）の開発、頚椎症に対する人工椎間板の開発などが代表的仕事である。

また北海道大学脳神経外科のみならず、日本脳神経外科学会の中での脊髄疾患というサブスペシャリテイーの第一人者として　学会活動を牽引してこられ、最近では脊髄疾患を取り扱う脳神経外科医の質の向上と育成を目的として、日本脊髄外科学会の中で、脊髄外科指導医・認定医・そして訓練施設を立ち上げ、選考委員会の委員長を務めている。また平成17年の第20回日本脊髄外科学会および第５回日韓脊髄外科学会の会長を務め、国内外のリーダーとして活躍している。

心筋興奮収縮連関におけるイオンチャネル機能の解明

札幌医大医学部生理学第一講座　教授　當瀬（とうせ）　規嗣（のりつぐ）

當瀬規嗣教授は、昭和59年北海道大学医学部を卒業と同時に同大大学院入学し、それ以来一貫して心筋細胞のイオンチャネルの機能とカルシウムの関係について研究を継続している。大学院時代には国立生理学研究所に留学し、当時最新の研究技法であったパッチクランプ法を習得し、心筋の遅延整流性カリウムチャネルが細胞内カルシウムにより活性化し、その機構がプロテインキナーゼCにより修飾されることを世界に先駆けて発見し、学位を取得した。その後、心筋細胞の興奮収縮連関におけるカルシウムの役割に関する研究を展開し、「ラット胎仔心筋細胞特有のカルシウムチャネルの発見」、「アドレナリンα受容体刺激によるカリウムチャネルの抑制の発見」、「cGMPによる心筋カルシウムチャネルの抑制作用の発見」、などの業績を挙げた。さらに近年に心筋細胞のカルシウムチャネルの新しいサブユニットを発見し、生理的に機能していることを示した。一方、ラット胎仔期から新生仔期にかけてカルシウムチャネルと筋小胞体カルシウム放出チャネルが近接構造を形成し、成体型の強力な興奮収縮連関が確立することを示した。最新の研究では、心筋カルシウムチャネルに結合して機能的修飾をおこなう新たなタンパク分子を発見した。

當瀬教授は、道内外の多くの研究者にパッチクランプ法の手ほどきを行い、また医学生や医学研究者にとっては難解である電気生理学の知識の普及に努力し、多くの研究者を養成した。このように研究のみならず研究成果の普及や医学教育まで大きく貢献している。

日本の農村部における2型糖尿病の有病率の推定

札幌医大医学部地域医療総合医学講座　教授　山本（やまもと）　和利（わり）

山本教授は、これまで一貫して地域医療およびその教育に従事して臨床研究を行ってきた。特に、北米の総合内科グループによるEvidence-based Medicine（EBM）すなわち科学的医療を実践すべきであると主張するEBMに着目し、短期ではあるが、世界的な権威者となっているサケット博士のもとでその研究手法と教育手法を学んだ。それによって、早くから総合医学の分野において日本におけるエビデンス作成につとめ、医学部学生・研修医に対して積極的に臨床疫学やEBMの教育を実践してきた。最近では、それに加えて患者中心の医療・Narrative-based medicineの普及を目指して多くの著書や翻訳を手がけ、それらを活かした研究・診療・教育を行っている。

受賞研究では、すでに糖尿病と診断されている者と新たに75g経口血糖負荷試験で糖尿病と診断された者318名の血糖値データを、空腹時血糖値または食後血糖値データのみの対象者1,179名に、血糖値の一定の層ごとに糖尿病の有病率を当てはめて推測するという臨床疫学的手法を用いて、農村部の糖尿病有病率を推定した。別の年度のデータを用いてこの手法の妥当性を検証したが再現性が確認された。また、この手法によって得られた結果は、別の研究者によって得られた農村地域住民の悉皆調査で得られた研究結果と同様の結果であった。この方法により、地域住民に悉皆調査を行わなくてもかなり正確に地域の糖尿病有病率が推測できるようになった。

以上のような研究により、北海道における地域医療の向上・発展に寄与している。

心臓血管外科領域の救急医療

旭川医大医学部救急医学講座　教授　郷（ごう）　一知（かずとも）

近年、全人的医療としての救急医療の重要性が、臨床面からも医学教育の面からも注目されている。本邦でも心・大血管領域の疾患による救急疾患が増加し、心肺蘇生とその後の治療の重要性が指摘されている。

旭川医科大学で1991年から2004年までに外科治療が施行された心疾患、胸部大動脈疾患1067例中、2割以上の症例で緊急手術を要した（胸部・胸腹部大動脈瘤で29%、成人の開心術で23%、先天性心疾患で24%）。成人では、急性大動脈解離、真性大動脈瘤の破裂、不安定狭心症、急性心筋梗塞の合併症、感染性心内膜炎、及び人工弁機能不全に対する手術、小児では、大動脈転位症、総肺静脈還流異常症、左心低形成症候群等の心内修復術、及び複雑心奇形の姑息的手術が主なものであった。

郷教授は一貫して成人から新生児までの循環器疾患の外科治療を担当し、その臨床成績の向上のための臨床研究を行ってきた。臨床を通じ、胸部大動脈瘤手術に対する補助手段の開発、拍動下冠状動脈バイパス手術の新たな術式を臨床応用、新生児の開心術のための旭川医科大学型小型人工心肺装置を開発し、より安全な手術を可能としてきた。

また、平成14年からは新設された救急医学講座の運営を通じ、道北地域における救急医療の発展に努めてきた。特に循環器疾患の緊急外科治療成績の向上を認める。循環器系の救急医療に寄与すること大であり、今後の発展を期待できる。

網脈絡膜疾患における硝子体の役割

旭川医大医学部附属病院経営企画部　教授　廣川（ひろかわ）　博之（ひろゆき）

硝子体は虹彩裏面、毛様体、網膜で取り囲まれ、眼球容積のほぼ四分の三を占める。この硝子体には様々な網脈絡膜疾患に伴い、収縮、融解、網膜からの剥離（後部硝子体剥離）などが生じる。これらの硝子体変化が急激に発生すると、網膜へ影響を与える可能性がある。一方、正常眼においても融解や後部硝子体剥離などが加齢により生じてくることから、網脈絡膜疾患に伴う硝子体変化の評価にあたっては、正常眼硝子体との比較が必要となる。

廣川教授は正常眼硝子体での融解と剥離の関連を明らかにし、サルコイドーシス、ベーチェット病でのぶどう膜炎や周辺性ぶどう膜炎、特発性黄斑部網膜前膜などの網脈絡膜疾患で、正常眼に比べ網膜への硝子体牽引を残した後部硝子体剥離を生じることが多いことを明らかにした。そして、この持続する硝子体牽引が網脈絡膜疾患での黄斑部変化、特に黄斑浮腫の発生にきわめて重要であることを示した。さらに、黄斑部への硝子体牽引が視力予後と関連していることを示した。

近年、糖尿病網膜症や網膜静脈閉塞症に合併した黄斑浮腫は、硝子体手術により改善する可能性のあることがわかってきた。廣川教授の研究はぶどう膜炎や網膜前膜での黄斑浮腫に対しても、硝子体牽引を解除することが有効であることを示し、治療法選択の根拠をなすものである。

第85回北海道医学大会総会プログラム

平成17年9月24日㈯　札幌市（札幌グランドホテル　グランドホール）

◆各科トピックス　(15：00〜17：00)

演題・演者		座　長
1.「遺伝子治療の現状と将来」	北大小児科学 教　授　有賀　正	札幌医大小児科学 教　授　堤　裕幸
2.「人工関節置換術における最近の進歩」	旭川医大整形外科 教　授　松野　丈夫	北大スポーツ・再建医学 教　授　安田　和則
3.「当教室でクローン化したリン脂質代謝酵素の新機能」	札幌医大第二生化学 教　授　加納　英雄	旭川医大第一生化学 教　授　谷口　隆信
4.「血液疾患治療の最近の進歩」	札幌北楡病院 副院長　笠井　正晴	北海道医師会 常任理事　渡辺　直樹

◆特別講演　(17：00〜18：00)

座長　第85回北海道医学大会会頭　本間　研一

テーマ「中枢神経系の再生医療」　講師　慶應義塾大学医学部生理学教授　岡野　栄之

◆平成17年度北海道医師会賞・医学研究奨励賞並びに北海道知事賞贈呈式　(18：10〜19：00)

◆平成17年度北海道医師会賞・医学研究奨励賞並びに北海道知事賞受賞者祝賀会、第85回北海道医学大会総会懇親会　(19：00〜20：30)